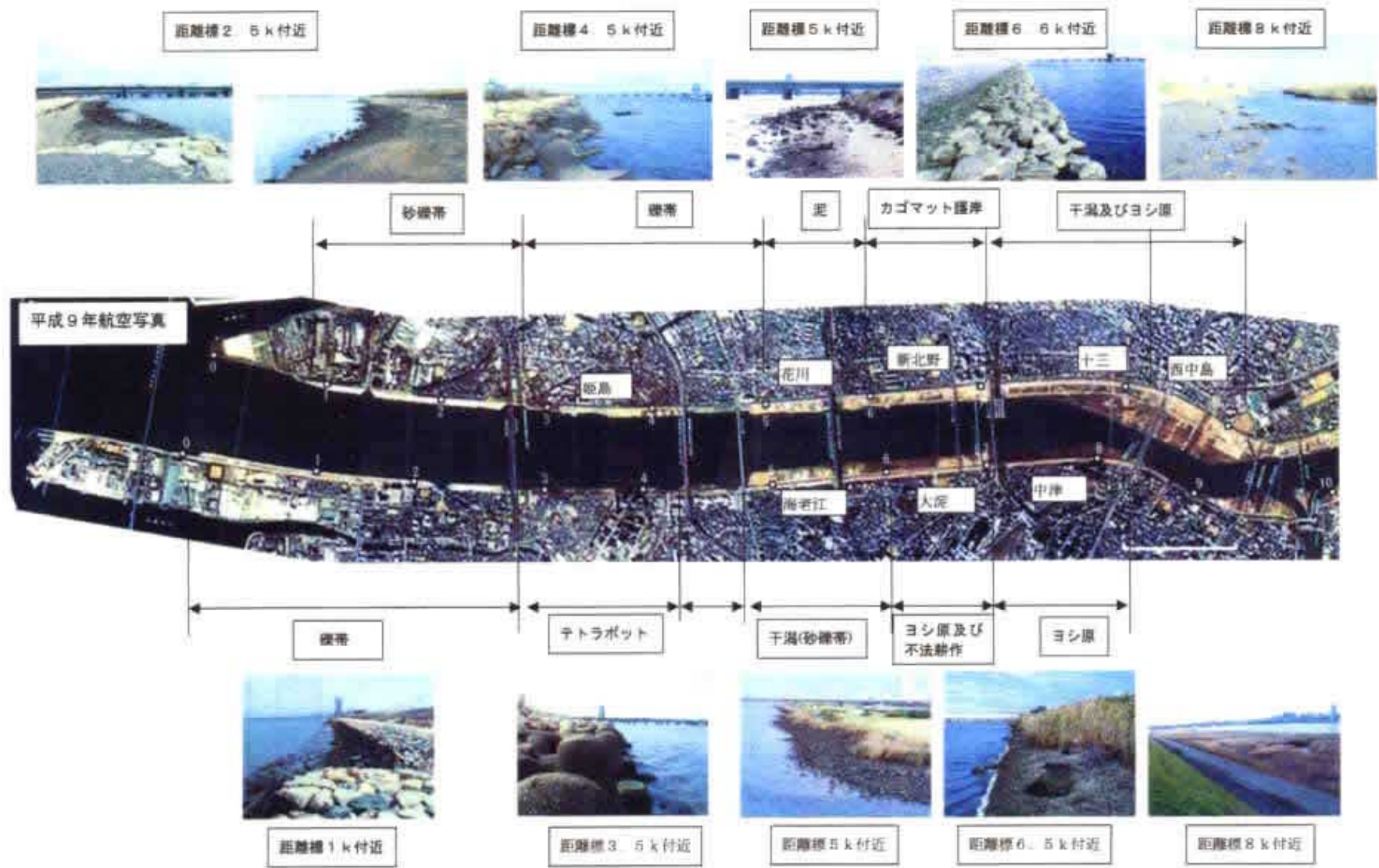




利根川水系流域委員会
第7回 委員会水位管理WG (H14.10.1)
資料 3-1



左岸

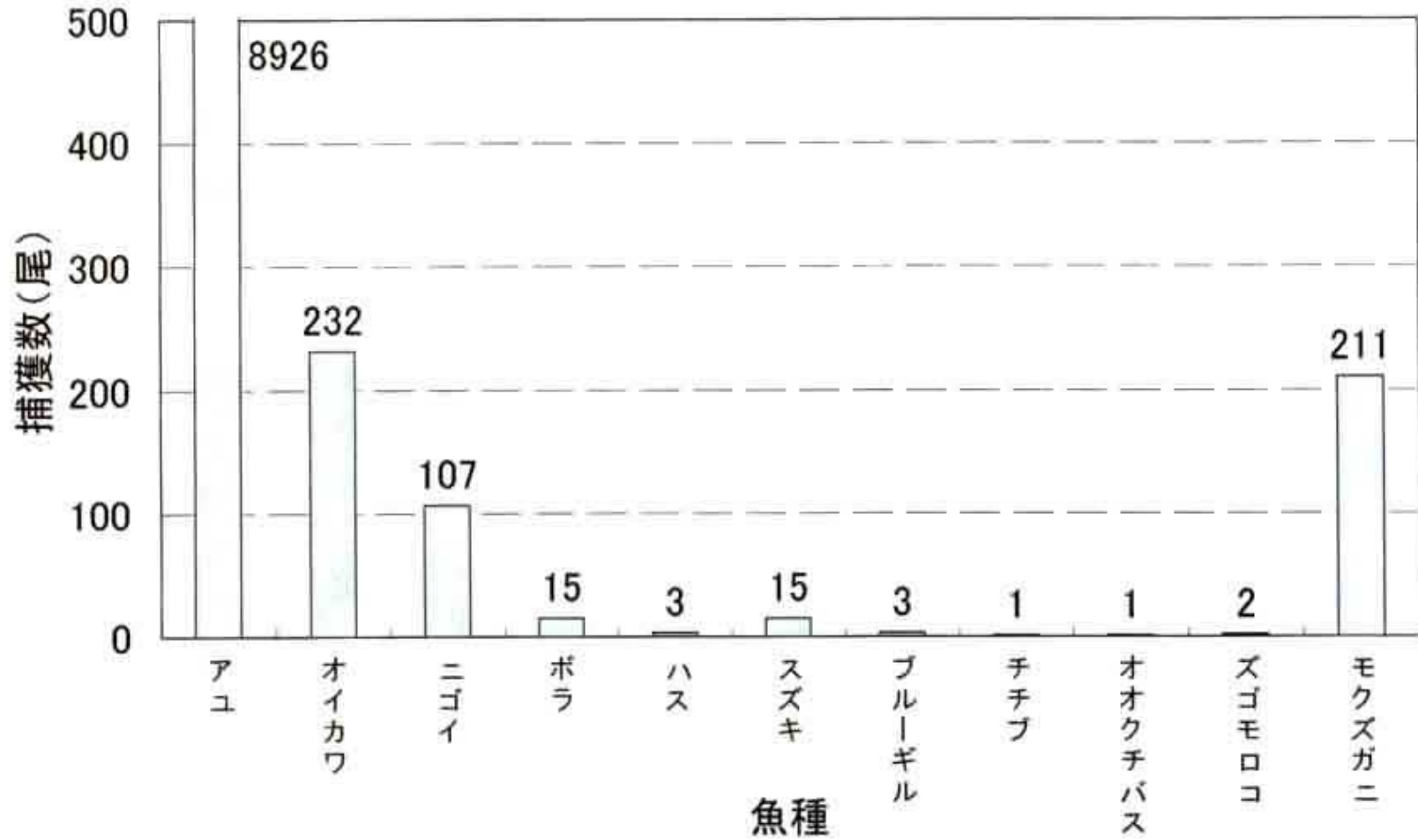
距離標	距離帯		距離帯の背後地の状況
	幅	状況	
0k~3k	8m~10m	礫帯	平地(草) ヨシ原、河川公園
3k~5k	2m~6m	テトラポット	
5k~6k	10m~20m	砂礫帯	
6k~7k	10m~20m	泥	
7k~8.2k	50m~110m	泥	
8.2k~8.8k	0m~10m	護岸	ヨシ原

右岸

距離標	距離帯		距離帯の背後地の状況
	幅	状況	
1k~3k	0m~10m	砂礫帯	グラウンド ヨシ原、グラウンド
3k~5k	5m~15m	礫帯	
5k~6k	20m	泥	
6k~7k	5m~15m	カゴマット護岸	
7k~8.5k	30~200m	泥	
8.5m~9.5k	5m~15m	砂、泥	グラウンド ヨシ原、河川公園

図-2 淀川の汽水域の水辺状況

平成13年度 淀川大堰魚道 確認魚種別捕獲数



出典: 淀川工事事務所, 平成13年度 淀川大堰魚道調査業

表1：淀川感潮域における潮間帯生物の分布（1987年4～9月調査）。固着性種については優占種を++，非優占種を+で，非固着性種については量的な評価をせず，出現種を*で示した。

河口（此花区常吉）からの 流程 (km)	0	1.0	3.6	4.1	5.2	6.0	6.8	7.1	8.1	9.5	10.0	10.4
スジアオノリ		+		+		+		+	+	+	+	+
タテジマイソギンチャク	+	+		+		+						
カワザンショウガイ								*	*	*	*	*
タマキビガイ		*	*	*	*	*						
チレニアイガイ	++	++	+	+	+							
コウロエンカワヒバリガイ	+	+	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++
マガキ	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++		
ヤマトシジミ					*	*	*	*	*	*	*	*
ウネナシトマヤガイ			+			+						
コケムシの1種		+										
<i>Pseudonereis variegata</i>	*											
ゴカイ			*	*	*	*			*	*	*	*
アシナガゴカイ	*	*	*		*	*			*	*		*
ミズヒキゴカイ		*										
<i>Notomastus</i> sp.						*			*	*	*	*
カニヤドリカンザシゴカイ	+	+	+		+	+	+	+	+	++	++	++
タテジマフジツボ	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++
ヨーロッパフジツボ		+	+	+	+	+	+	+	+	+		+
アメリカフジツボ		+	+		+		++	++	++	++	++	++
ドロフジツボ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		++
イソコツブムシ	*	*		*	*	*	*	*	*	*		*
フナムシ	*	*	*		*	*	*	*	*	*		*
ユビナガホンヤドカリ				*		*						
ヤマトオサガニ								*				
モクズガニ				*	*	*	*	*	*	*	*	*
イソガニ	*	*										
ケフサイソガニ	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
クロベンケイガニ									*	*	*	
アシハラガニ								*	*	*		

出典：山西良平, 感潮河川の水ぎわの生物相, Nature Study 41 (4), 1995

(3) 水質悪化の問題（夏季渇水時の底層の貧酸素化等）

現状の課題

通常は旧淀川（大川）に放流されており、新淀川への流量は確保されておらず、淡水から海水への移行が一般の河口堰を有する河川以上に不連続となっており、淀川大堰からの放流量が少ないあるいは全くない時期では、塩分の高濃度化とその停滞、さらに、夏季においては底層の貧酸素化という問題も生じている。

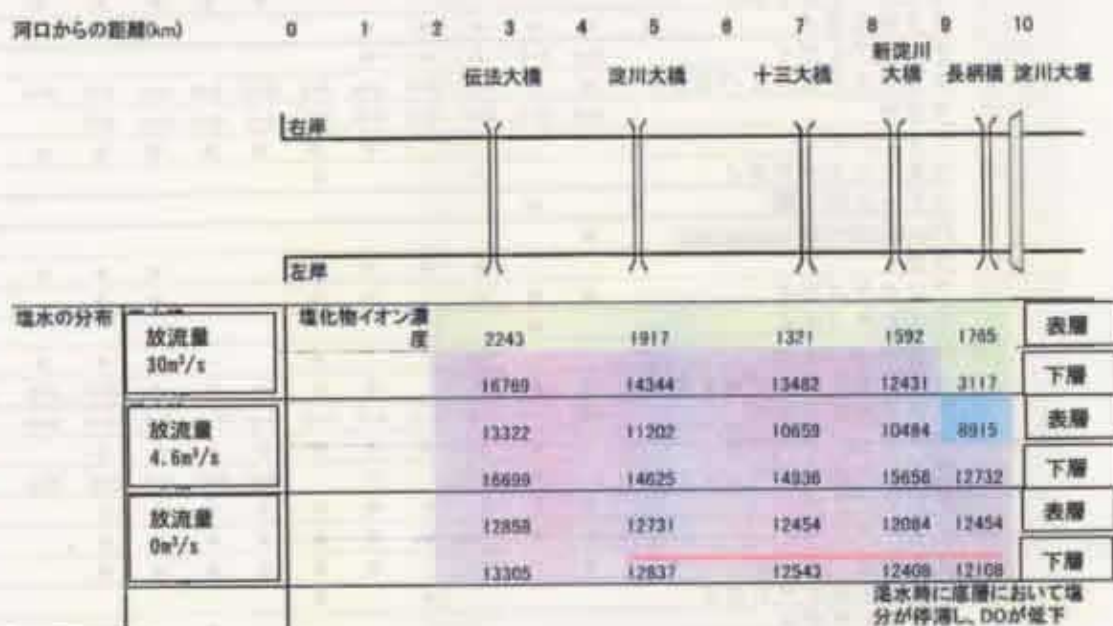
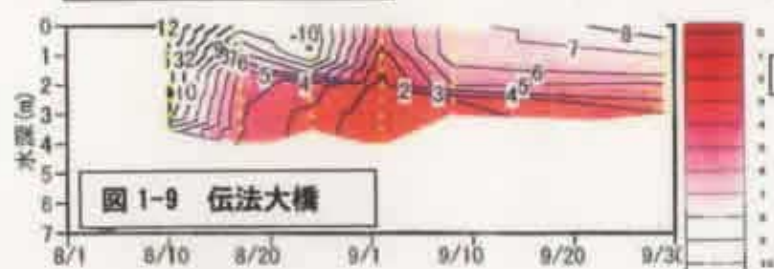
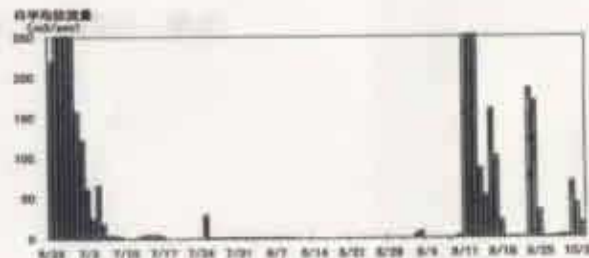


図 1-7 淀川大堰放流量と塩化物イオン濃度

REDEKE system による濃度域の区分
Fluoride and Sulphate (F/S) 濃度区分

濃度	色
淡水	< 200
弱酸性汽水	200 ~ 1100
中酸性汽水	1100 ~ 3300
強酸性汽水	3300 ~ 8900
多量性汽水	8900 ~ 17000
海水	> 17000



夏季渇水時に底層のDOが低下

出典：新淀川水環境計画検討業務報告書